



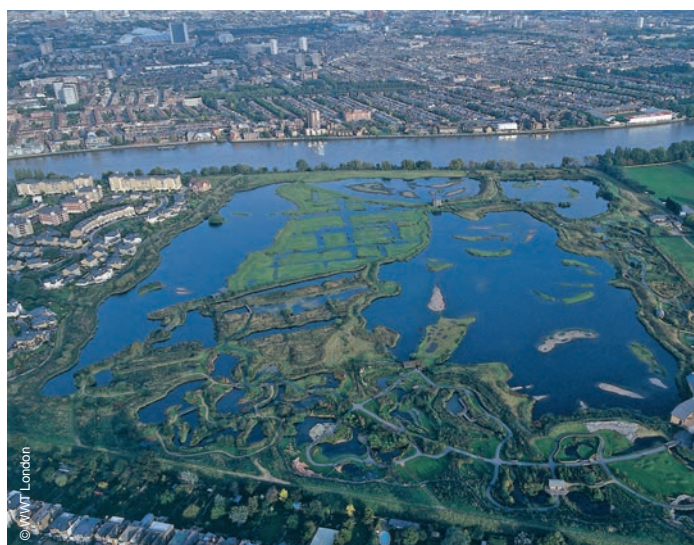
World
Wetlands Day
2 February 2018

Wetlands for a sustainable urban future



維持と再生： 都市の湿地を守り、管理する実践的な方法

都市計画や都市の政策決定を行う人たちは、自然環境を守りながら、都市における土地需要の増加にどう対処するかという、現実的な二つの課題の板挟みになります。都市の湿地は、安全で災害に強く、持続可能な都市環境を作り出すという、重要な役割を果たしています。これは、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標11と関連します。



都市の湿地を再生する

4つの古い貯水池を取り囲むように流れるテムズ川の湾曲部に位置するロンドン湿地センターは、水鳥・湿地トラスト(WWT)が運営する、40ヘクタールの再生された都市湿地です。ここには180種の鳥類など、さまざまな野生動物が生息しています。ビジターセンターと観察舎が備わったこの場所は、年間17万人が訪れる湿地教育の中心となっています。

水の過剰消費と汚水の流出を減らす

2012年から14年にかけてエクアドルのキトは、市のカーボンフットプリントとウォーターフットプリントを測定しました。市は現在、2032年までに自治体のウォーターフットプリントを68%削減するという目標を掲げています。環境にやさしいトイレや水効率の良い設備、水の再利用を促進する新しい政策により、およそ15億立方メートルの水消費が抑えられると考えられます。

地域住民が湿地計画に関わるようにする

ストウントレン湿地は、メコン川沿いの河畔湿地と島々で構成される14,600ヘクタールのラムサール条約登録湿地です。この湿地では、21村(1万人)の人々が漁業に大きく依存して暮らしています。また、絶滅危惧種のシャムワニも生息しています。2007年に国際自然保護連合(IUCN)が行ったアセスメントの結果が、湿地内の重要地域や魚介類の産卵時期中の漁獲制限等の住民主導の活動に結びつきました。その結果、大型の魚が戻ってきています。

政策や計画の中に、湿地を含める

ガーナの首都で同国最大の都市であるアクラは、海岸沿いの平原に位置し、自然の洪水調節機能、水浄化機能、漁業などの湿地の恩恵を受けています。都市の成長により湿地が脅かされた時、政策や計画の策定の際に、湿地を主流化するという方策を市は取りました。厳格な建築規制や汚染防止措置を行い、無秩序な街の拡大を防止するために明確な緑地帯を設け、地域の湿地保全に住民の協力を促すプログラムを作り、二つの湿地をラムサール条約に登録しました。

コミュニティで湿地の一斉清掃を行う

ボルザ・チカは、ロサンゼルス郊外のハンティングトン海岸にある、356ヘクタールの沿岸湿地保護区です。ボルザ・チカ・コンサーバンシーは毎月2回、奉仕活動の日を設けています。ボランティアたちが湿地の水路や散策路で拾うゴミは、推定で年間10トンに上ります。

知っていましたか？

ハリケーン・サンディが襲った際、アメリカ合衆国の沿岸地域では湿地のおかげで6億2500万ドル相当の物的損害が回避されました。2017年にカリブ海やアメリカ合衆国、バングラデシュ、ネパールを襲った暴風雨や壊滅的な洪水の後、都市の湿地が果たす重要な役割を認識する街が増加しました。



#KeepUrbanWetlands
#WorldWetlandsDay
www.worldwetlandsday.org

UN HABITAT
FOR A BETTER URBAN FUTURE

I.C.L.E.I
Local
Governments
for Sustainability



World Wetlands Day
is made possible by the
Danone Fund for Water.

